

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	摂食嚥下障害を含む要介護者対応の観光・福祉連携事業		
(2) 実施団体名	久米島観光・福祉連携協議会	(3) 対象地域	沖縄県久米島町
(4) 代表団体名	社団法人久米島町観光協会	(5) 推薦団体名	久米島町

(6)実施した取組の内容	取組①	ごちそう介護食の開発		
	実施主体	久米アイランド、イービーチリゾート、サイプレスリゾート等		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		実施内容:「ごちそう介護食」の開発 実施時期:平成20年9月～1月 開催場所:久米島内協力ホテル 取組目的:飲み込み力が弱くなった方を含め、要介護者がおいしく食べられる「ごちそう介護食」をメニュー化。地元の食材を活かし、ゼリー食、ペースト食、柔らかい普通食の三段階を開発。	実施内容:「ごちそう介護食」の開発 実施時期:平成20年9月～1月(12/9、11: 独居老人食事会開催) 開催場所:久米島内協力ホテル 取組結果:島内の独居老人たちに対し、開発したメニューの食事会を開催。飲み込み力が弱くなった方を含め、要介護者がおいしく食べられる「ごちそう介護食」を開発した。(アンケート実施)	
	取組②	要介護者および介護家族向けレクリエーションメニューの開発		
	実施主体	久米島町観光協会、エボリューション等		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		実施内容:来島者(要介護者・介護家族)へのレクリエーションメニュー開発 実施時期:9月～1月 実施場所:ハテの浜、渡名喜、三線教室、島の学校 取組目的:久米島の既存資源を活用した、観光来島者と地域住民が行える要介護者向けレクリエーションの開発(インストラクターとの共同開発)	実施内容:来島者(要介護者・介護家族)へのレクリエーションメニュー開発 実施時期:9月～2月 実施場所:ハテの浜、渡名喜、三線教室、島の学校 取組目的:久米島の既存資源を活用した、観光来島者と地域住民が行える要介護者向けレクリエーションの開発(インストラクターとの共同開発)三線教室や陶芸教室と併せてハテの浜観光等、開発・改善を実施中	
	取組③	観光事業者におけるバリアフリー接遇の強化		
	実施主体	久米アイランド、イービーチリゾート、サイプレスリゾート、ハテの浜渡船業者等		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		実施内容:観光・レクリエーション施設のバリアフリー化の向上を図るため、バリアフリー接遇の習得を、「サービス介助士」の資格取得を行いながら進めていく 実施時期:9月～1月 実施場所:3リゾートホテル、ハテの浜 取組目的:接遇の向上及び島内要介護者に対する施設の開放・QOL向上も睨む	実施内容:観光・レクリエーション施設のバリアフリー化の向上を図るため、バリアフリー接遇の習得を、「サービス介助士」の資格取得を行いながら進めていく 実施時期:9月～3月 実施場所:3リゾートホテル、ハテの浜 取組結果:地元高校生も含めたメンバーが「サービス介助士」の資格を取得し、バリアフリー接遇の習得・向上を進めているところ	
取組④	島内介護人材の育成			
実施主体	久米島町観光協会、エボリューション等			
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		

実施内容、 実施結果	<p>実施内容：一般島民から「観光ケアサポーター」を10名以上養成し、「顔が見え安心して任せられる」「島人と交流できる」、久米島介護旅行の確立。島内の介護施設・病院を手伝える人材の創出。 実施時期：9月～3月 実施場所：介護施設 実施目的：観光ケアサポーター（10名以上）の養成とネットワーク化</p>	<p>実施内容：一般島民から「観光ケアサポーター」を10名以上養成し、「顔が見え安心して任せられる」「島人と交流できる」、久米島介護旅行の確立。島内の介護施設・病院を手伝える人材の創出。 実施時期：9月～3月（11月5～7日養成講座開催） 実施場所：介護施設 実施結果：観光ケアサポーターを養成済みであり、実地訓練も順次行っている</p>
取組⑤	介護旅行コンシェルジュの育成	
実施主体	久米島町観光協会	
実施内容、 実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実施内容：コンシェルジュ役割定義・人材選定・トレーニング及びホームヘルパー2級の取得等を実施 実施時期：9月～12月 実施場所：介護施設 実施目的：介護旅行の事前相談窓口・事業者連携の基点・観光ケアサポーターの司令塔となるコンシェルジュの養成及びコンシェルジュ業務のマニュアル作り</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容：コンシェルジュ役割定義・人材選定・トレーニング及びホームヘルパー2級の取得等を実施 実施時期：10月～2月 実施場所：介護施設、3ホテル 実施結果：各事業の司令塔となるコンシェルジュの養成については、東京医科歯科大学の千葉助教授のトレーニングメニューにより、島内介護施設での実地訓練を実施。（業務マニュアルは作成中）</p>
取組⑥	基盤整備の検証	
実施主体	久米島町観光協会、エボリューション等	
実施内容、 実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <p>実施内容：提供サービスや受け入れ体制の検証及び改良の実施 実施時期：11月～3月 実施場所：3ホテル等 実施目的：提供サービス・受け入れ体制の検証と改良、本土介護関連事業者等の訪問により旅行商品としての魅力を検証</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <p>実施内容：提供サービスや受け入れ体制の検証及び改良の実施 実施時期：11月～3月 実施場所：3ホテル等 実施結果：現在、既に実施した事業等については、体制の強化のため、アンケートも含め、検証を開始。介護関連事業者等へのヒアリングも順次実施中</p>
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	
	<p>久米島町観光協会とエボリューションが中心となって、事業を進めているが、取組①食事メニューについては、協賛ホテルや介護施設等が中心で行い、取組②～④のバリアフリー接遇やレクリエーションメニュー開発については、（久米島町観光協会等がコーディネートし）観光施設等の方々と連携し、事業の推進・メニューの開発を行うこととしている。取組⑤のコンシェルジュ養成・マニュアル作りは、エボリューションが主導し、取組⑥の基盤整備検証については、久米島観光協会とエボリューションが共同で実施</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>事務局側のスタッフに限りがあるため、「あれもこれも」的には事業を進めることは難しい。 次年度以降は、協力事業者らとも調整のうえ、スムーズな事業運営を図ることとしている。 基本的な部分で、当初のスケジュール通りに進んでいるが、⑤コンシェルジュ養成・マニュアルについては、様々な対応を求められるポストにつき、「経験不足」な点が否めない。</p>

(8)取組により得られた成果	○成果1→ 摂食嚥下障害対応の食事宿泊・レクリエーションメニューを提供出来る施設の創設	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	宿泊施設・レクリエーション施設ともに0	食事宿泊施設3施設、レクリエーション施設3施設
	H20(実際に得られた成果)	
	(完成とまでは言えないまでも)3ホテルにおいて食事宿泊は可能となった。レクリエーション施設については、バリアフリー化の推進中であり、当初予定の3施設は達成予定。	
	○成果2→ トラベルサポーターもできる島内介護人材の養成	
H19	H20(当初予定していた目標)	
介護人材0	介護人材20名	
H20(実際に得られた成果)		
観光ケアサポーター、サービス介助士の資格取得については、予定(目標)人員は達成。正、介護レベルの向上には時間のかかるため、現在は次のステップのための足がかりというレベルである。		
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>ニッチな事業であり、PRも含め、旅行社との調整も必要な事業であるが、地域の方々との連携で、細かい部分の対応が(予想以上に)多いため、全ての事業を予定通りにこなすことは困難。</p> <p>今後の事業については、あまり欲張らず、一つ一つ(資格を取らせる研修事業も含め)着実に進めていくことが必要。</p> <p>地域の方々の熱意もあり、(地元高校生らの参加もあった)層の厚い地域連携事業が進められている。</p>	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	「摂食嚥下障害障害対応」旅行商品の販売開始+島内介護サービスの質・量の向上	20年度事業の課題が見えてきたこともあり、21年度事業において強化を図るため継続を希望
	旅行弱者対応「第三弾」商品の開発に取りかかる	20年度事業の課題が見えてきたこともあり、第三弾商品については、繰り延べ(第一弾(経産省事業で開発したアレルギーモニターツアー)と併せて、摂食嚥下障害者等への対応を更に強化するため継続を希望
	観光・福祉・医療・健康増進の連携と、島内事業者の連携姿勢を更に強化し、この協力基盤を地域の競争力とする	20年度事業の課題が見えてきたこともあり、21年度事業において強化を図るため継続を希望

摂食嚥下障害を含む要介護者対応の観光・福祉関連事業(沖縄県久米島地域)
—久米島町観光・福祉連携協議会(代表:社団法人 久米島町観光協会)—

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

◆主な実施取組の内容◆

実施取組内容・結果

ごちそう介護食の開発:島内の3ホテル、介護施設において、シェフが作った、見た目も良く、美味しい介護食を、旅行者及び島内の居住者用に開発した。12月には、島内独居老人を招き、開発したソフトミールを提供し、アンケートをとる等、更なる改善も行っている。実際に開発したメニューを以下に示す。



琉球アグーのステーキ
～野菜ムース添え～
夕焼け色のソース
※豚肉(アグー)を挽肉より細かい状態に潰し、肉の風味を活かし、且つ飲み込み易く仕上げた



白桃のピューレ
海洋深層水のゼリー
※海洋深層水を使い、質の良いゼリーに加工し、白桃フレーバーにより落ち着いた味わいのデザートに仕上げた

実施取組内容・結果

観光宿泊施設のバリアフリー化、介助士等の育成も進めているが、希望する者に対し講座・実地訓練を施すことで、要介護者の状況も認識することが出来、心のこもったサービスを展開することが出来る。介助士の資格を得たものも、今後、スキルの維持・向上を図るために、事業での継続的な対応実施が課題。



左上が要介護者のおかれた状況を認識するための高齢者疑似体験

左下が車いすを使ったサポート訓練及び、要介護者が車いすを使う場合の体験も併せて行プログラム

◆取組実施による成果・今後の展開◆

今回の事業実施に際し、島内の色々な事業者・島民が参加することにより、島を挙げての観光プログラムの開発が進められた。が、こういったサービスは、定期的・継続的に行ってこそ、更なる改善点、スキルの向上が図られるものであり、20年度の事業の確立・高度化を図るため、21年度は20年度事業で深掘りが出来なかった部分(コンシェルジュ養成やレクリエーションメニューの充実)を進めるとともに、19年度に(経済産業省事業で)実施したアレルギー対応モニターツアーも含め、オフシーズン中におけるツアープログラムのPR、受け入れ体制の強化に努める。